

湖南省長 全国市長会相談役に就任

6月12日に東京で開催された第89回全国市長会議通常総会において、谷畑英吾湖南省長が全国市長会相談役に就任しました。昨年の副会長から引き続いての就任です。

全国市長会は全国815の都市自治体の市長で組織し、地方自治に影響を及ぼす政策の企画・立案の実施に関し、国に対する働きかけや話し合いを行っています。

近年、地方の意見を尊重し、合意形成の上で行われるべきものが、国の判断だけで進められる例が見受けられます。今年10月から実施される幼保無償化は、国が地方自治体と協議をしないまま制度を導入し、負担を求めるものでした。そのため、昨年度、市長は全国市長会副会長として、制度の不備を政府に指摘し、議論を行いました。

また、今年4月からの入管法の改正による外国人労働者への対応は、各自治体における課題となっていますが、国は具体的な取組や事例を把握できていない状況にあります。本市は早くから外国人との共生に取り組んでいることから、今までの経験をもとに、特に教育・生活環境面の支援の重要性について、全国の自治体や国に情報を発信しながら、「地方自治体にとって最善の方法は何か」を相談役としてしっかりと問題提起していくことが期待されています。

市長は、自然災害が多発するなか、発災時における緊急支援体制を強化するために昨年度設置された防災対策特別委員会においても、副会長として活躍されています。



問秘書広報課(東庁舎) ☎71・2314 FAX72・1467

三雲駅については、昭和62年に旧甲西町で構想の検討に取りかかり、用地買収や都市計画で紆余曲折を繰り返しながら、何度も計画や実施主体の見直しを行いました。平成29年4月によりやく駅舎のバリアフリー化にたどり着き、工事完了は令和2年度とされています。

石部駅については、平成22年に湖南省で石部駅周辺まちづくり会議を設置し、石部地域や菩提寺地域のみなさんにアンケート調査を行うなど検討を始めました。その結果、平成26年に基本構想を策定し、平成30年には基本設計を取りまとめました。今年度は、知事の都市計画決定と事業認可をめざしていますが、先月19日と22日には、その都市計画決定に必要な地元説明会を開催したところです。

先月27日に令和元年6月市議会定例会が閉会しました。そこで、質問があった石部駅周辺整備についてご説明します。

湖南省内には3駅ありますが、甲西駅については、合併前の旧甲西町で平成14年から駅周辺整備の検討に取りかかり、中心市街地整備の一環として、既存施設の改修というかたちで、平成27年3月にバリアフリー化が終了しています。

現在、駅舎のデザイン素案は、旧東海道と石部宿の風情を感じ、環境や安全性に配慮したものとしております。

今後、事業が採択されれば、JRと協定を締結し、令和2年には実施設計を行うとともに、並行して令和3年までに用地取得、その後2か年で駅舎や自由通路の整備を計画しています。



未定部分がありますのでスケジュールは前後する場合がありますが、できるだけ早期に対応したいと考えています。